科目名	多国籍企業論特講	担当者	諸上（モロカミ） 茂登（シゲト）	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	2008 年のいわゆるリーマンショック以来、従来の経済・市場と企業活動等のグローバリゼーションの展開への懐疑が世界的に広まった。本講義では、新自由主義者たちが主張してきたような一律のグローバリゼーションが現実的でもなく理想的でもないことを理解し、現代多国籍企業が直面している経営環境変化と企業行動の諸課題について把握することを目的とする。また、それらを踏まえて、日系多国籍企業にとっての課題の把握と問題解決の方向性についての知識を修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。 ① 一律のグローバリゼーションの幻想を理解することができる。 ② 国境を越えるビジネスにおける文化、政治制度、地理、経済（CAGE）の隔たりについて理解することができる。 ③ 上記②を含む基本的な課題に対して、多国籍企業の戦略ロジックと具体的対応の仕方について理解できるようになる。 ④ 日系多国籍企業が直面する諸課題、特に国際マーケティング上の課題と解決の方向性について理解できる。
到達目標	【一般目標（GIO）】 多国籍企業を取り巻く環境と行動原理を理解する 【行動目標（SBOs）】 ① 多国籍企業経営に関するグローバルスタンダードな専門的な構成概念や知見を理解する（知識） ② 日系多国籍企業の課題把握と問題解決のための分析枠組の構築の仕方を身につける（技能） ③ 日系多国籍企業が今後鍛えていくべき組織ケイパビリティについても自ら考え、提案することができる（態度）
学修方略 （方法）	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・ まず基本教材を熟読し、多国籍企業経営の特質（環境や行動原理）を理解し、リポートのドラフトを作成する。SBO① ・ 上記の基本的知識を身につけた上で、日系多国籍企業が抱える特定の課題解決の方策を考えるための分析枠組の構築（特定の課題について、どういう経済的背景や経営構造が関係しているか、課題解決のための特定の企業行動がどういう経営成果をもたらし得るか、という分析の流れ）について検討する。そのために企業ケーススタディの方法や関連データの収集方法などについて、例えば基本教材２の参考文献などを参照する。SBO② ・ 次に、領域を国際マーケティングに絞った上で、その基本的な課題と分析枠組および解決策について検討する。SBO②③ ・ この講座は学術的リポートおよび修士論文の作成のための訓練の場としても活用していただきたい。そのためには複数回の添削指導を通した最終リポートの作成が必要である。 【学修時間】 ・ 教材につき内容を理解し，具体的な考察を自らやってみることで身につくものであり，上記のステップを通じて、それぞれのリポート作成につき最低 45 時間の学習時間を要す。 ・ 教材以外の関連書籍を探し，新聞・ネットメディアなどの記事のほか，企業の公表資料などにもアクセスしていく必要がある。論文，民間シンクタンクのレポートなどの幅広い情報源を活用することが望まれる。
スケジュール	① 初稿の作成前に教員とおよそのアイデア交換を行う。 ② 課題へのアプローチ方法がわからない場合には早い段階でメール等にて連絡すること。 ③ リポートの最終提出までに複数回の添削指導を行う。教員による最終チェックのために、最終稿の提出期限の少なくとも 10 日前までに最終稿（案）を提出して下さい。 ④ 最終稿の提出期限は学事暦に従う。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	80 ％	① 教材の内容を十分に理解しているか ② リポート課題への解答が的確であるか ③ 基本教材、参考文献以外の資料が有効に活用できているか（加点項目）
	観察記録	20 ％	① 最終提出までに複数回のリポート交換ができているか ② 途中稿提出期限（最終提出１ヶ月前）が守られているか（減点項目）

履修者への要望	履修登録後、速やかに担当教員と学習計画について相談を始めること

【リポート課題】

基　本　教　材　１	
教材の概要	著者名：パンカジ・ゲマワット 教材名：『コークの味は国ごとに違うべきか』（文藝春秋、2009 年） ISBN-13:978-4163713700　1905 円＋税
	多国籍企業経営の入門書として評価の高いこの教材を通して、多国籍企業を取り巻く環境と基本的な課題と戦略について学ぶことができる
参考図書	諸上茂登、藤沢武史、嶋正編著『国際ビジネスの新機軸―セミ・グローバリゼーションの現実の下で―』（同文舘出版、2015 年）
履修上のポイント	世界的に著名なゲマワット教授によるテキストを通して、現代多国籍企業の行動原理と基本戦略について体系的な理解に努めましょう。
リポート課題 1	セミ・グローバリゼーションの下での現代多国籍企業が抱える基本的な諸課題について論述しなさい。 **留意点**： 最新の経営環境の変化については、新聞・ネットメディア等の記事も反映すること
リポート課題 2	国ごとの差異（CAGE/文化・政治体制・地理・経済）を成功につなぐ方策について論述しなさい。 **留意点**： ゲマワット教授の AAA 戦略を参考に論述すること

基　本　教　材　２	
教材の概要	著者名：諸上茂登 教材名：『国際マーケティング講義』（同文舘出版、2013 年） ISBN-13:9784495646110　2300 円＋税
	９０年代以降、日本企業は「技術では勝っているのに事業で負ける」と言われることが少なくない。本書ではその構造的要因を探ると同時に、国際マーケティング視点からそうした状況を脱するための様々なアイデアを提供している。
参考図書	諸上茂登編著『国際マーケティング・ケイパビリティー戦略計画から実行能力へ―』（同文舘出版、2019 年）2800 円＋税 佐藤郁哉『質的データ分析法―原理・方法・実践』（新曜社、2008 年）
履修上のポイント	日系多国籍企業は、新しい市場動向と技術動向を捉えた起業家のマーケティング・イマジネーションを起点とするマーケティングとモノづくりのより効率的、効果的な連携によって、国際市場での競争優位性を獲得・維持・強化することが可能であることを学びましょう。
リポート課題 1	９０年代以降、エレクトロニクス産業を中心に多くの日本企業が競争力を失った構造的要因について考察した上で、日本企業の課題について論述しなさい。 **留意点**： 教材の要約に終わるのではなく、できるだけ多くの関連文献を渉猟して学術的リポートとして執筆すること。
リポート課題 2	日系多国籍企業による①先進国市場の深耕、②途上国市場開拓、③BOP（最貧国市場）開拓の方策のいずれか１つに絞って論述しなさい。 **留意点**： 具体的な企業事例を交えて執筆すること。

基本教材１

第１回	「学ぶべき課題」について理解する。（フラット化しない世界、国ごとの違いを成功につなぐ）
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換を行う。
第３回	教材１に基づく学修①（コークの味は国ごとに違うべきか）
第４回	教材１に基づく学修②（ウォルマートは外国であまり儲けていない）
第５回	教材１に基づく学修③（ハーゲンダッツはヨーロッパの会社ではない）
第６回	教材１に基づく学修④（インドのマクドナルドには羊バーガーがある）
第７回	教材１に基づく学修⑤（トヨタの生産ネットワークはここがすごい）
第８回	教材１に基づく学修⑥（だからレゴは後発メーカーの追従を許した）
第９回	教材１に基づく学修⑦（IBM はなぜ新興国の社員を３倍にしたか）
第 10 回	教材１に基づく学修⑧（世界で成功するための５つのステップ）
第 11 回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材２

第１回	「学ぶべき課題」について理解する。（世界の産業・競争構造の理解と国際マーケティング）
第２回	「学修の進め方」について教員と意見交換を行う。
第３回	教材に基づく学修①（国際マーケティングの概念と進化モデル）
第４回	教材に基づく学修②（グローバリゼーションの現実）
第５回	教材に基づく学修③（世界的な産業・競争構造の激変）
第６回	教材に基づく学修④（日本企業の競争力）
第７回	教材に基づく学修⑤（持続的競争力のある企業の条件）
第８回	教材に基づく学修⑥（国際マーケティング戦略の基本と典型的イメージ）
第９回	教材に基づく学修⑦（国際マーケティング戦略の各論：４P を中心に）
第 10 回	教材に基づく学修⑧（世界から敬愛される人と企業へ）
第 11 回	リポート課題１・リポート課題２について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	リポート課題１に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	リポート課題２に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	リポート課題１・リポート課題２の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	リポート課題１・リポート課題２に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する